

幼い頃のよりみち体験

私の祖母は小さなギャラリーを営んでいました。駅前であり誰でも自由に出入りできる場所で、展示してある作品はまだ世に知られていない現代作家さんがほとんどです。私も小さい頃から作家さんとお話する機会に恵まれ、美術に興味をもつようになった原体験として印象深く覚えています。古里の子どもたちに美術作品をたくさん見てもらいたい。これは、当館創立者の諸橋延蔵（1934-2003）がよく口にしていた言葉ですが、私自身も美術館をもっと多くの人が気軽に訪れていただきたいと思うから、「よりみち展」の企画に至りました。

2025年
7月19日開幕！よりみち展、企画学芸員にインタビュー

作家の人柄によりみち

美術が好きで学芸員になった自分とは違い、妹たちはまったく異なる道に進みました。18年前、国立新美術館の「大回顧展 モネ 印象派の巨匠、その遺産」へ家族で行ったときも、妹たちはあつという間に見終わりと、手持ち無沙汰で私を待っていました。そんな妹が唯一好きなのはゴッホ。理由はテレビで観たゴッホ特集の影響のようです。「月日が経って有名になり、今の名声をさぞかし喜んでるだろう」と思い馳せていたのを覚えています。作品を好きになるきっかけは人それぞれ。だからこそ、よりみち展では作家の人柄をはじめ、技法や時代背景など知られざるよもやま（四方八方・世間のさまざま）などの意を紹介しながら、美術を好きになるきっかけがつけられたらいいなと思っています。

よりみち展企画学芸員おすすめ！
鹿児島県の「長島美術館」

昨年、出張で鹿児島県に行き、その際に訪問した美術館。丘の上にあり、そこから桜島が一望できる素晴らしいロケーションです。地元・鹿児島の陶器から中南米の作品まで幅広く鑑賞でき、充実した時間が過ごせました。



長島美術館（鹿児島市）から見える桜島



館内喫茶室でのよりみちスイーツ



諸橋近代美術館

morohashi museum of modern art

〒969-2701 福島県北塩原村松原字剣ヶ峰1093番23 TEL. 0241-37-1088



各種予定が変更になる場合がございます。
最新情報は当館HPにてご確認ください。
<https://dali.jp>

「とこのう」の出会い

学芸員は出張が多い仕事。作品をお借りする際には事前調査に伺い、作品輸送時には作品とともに移動します。5年ほど前、出張したときのビジネスホテルにサウナがあり、初めてじっくりとサウナに向き合いました。「サウナに入って、水風呂に入って、休憩する。を繰り返す」と書いてあり、その通りやってみたところ、展示作業の疲れが一気に抜けた感覚があったのです。頭の中がリセットされ、何も考えなくなった。思ったら今度はアイデアが溢れてくるではないですか！非常に爽快で、これが「とこのう」といふことかあ」と、一気にサウナにハマってしまいました。

サウナ大好き！とこのう展企画学芸員です
目下、目指すは熱波師学芸員！

サウナ熱が高じ、熱波師修行の最中！熱波師とはタオルやうちわを使い、サウナで発生させた高音の蒸気を浴びせる仕事で、サウナの蒸気を効果的に体全体に届ける技術です。4/12・13の「モロビでサウナフェス」では熱波師学芸員のデビューも果たす予定です。



とこのう感覚を美術館で！

出張先で立ち寄ったサウナに、何気なく絵がかかっていた。ぼんやり眺めながら、ひとつの仮説が浮かびました。美術館でもとこのう感覚を味わえるのではないかと。自分自身、東京都美術館で開催されたエルグレコ展に行き、作品から聞こえてくるような安らぎを覚えた経験があります。アートからも知らず知らずのうちに癒しをもらったり元気づけられたり、見えざる力があるのではないのでしょうか。当館は磐梯朝日国立公園の中にあり、通勤中の流れる景色から目が喜ぶ感覚を味わうことができます。大自然の中、美術作品を通してとこのうという感覚を皆さんにも味わってほしいと思っています。

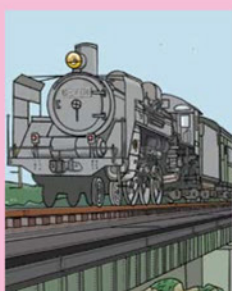
2025年
4月12日開幕！とこのう展、企画学芸員にインタビュー

当時の労働者を癒した風景画



シスレーが生まれたのは1839年。イギリスを皮切りに鉄道技術がヨーロッパで発達・普及しはじめ、1841年には初の鉄道ツアーも催行されました。中流階級の余暇活動が生まれたのもこういった時代背景のもとでした。稼ぎが増え、家計に余裕が生まれ、休みが生まれると同時に今日的なストレス社会が生まれたのもこの頃。日々の仕事の疲れを癒すように「そうだ旅しよう!」という感覚が生まれたと言えます。

シスレーはイギリス生まれ、フランス育ち、裕福な家庭で育った都会っ子。シスレーははじめ当時の画家は都会バリから自然豊かな行楽地へ絵を描きに出かけました。こうして描かれた風景画はアカデミックな場所では否定されたものの、近代化の煽りを受けて自然に癒しを求めていた世間には友好的に受け入れられたのでした。



アルフレッド・シスレー《積み藁》
1895年 油彩/カンヴァス

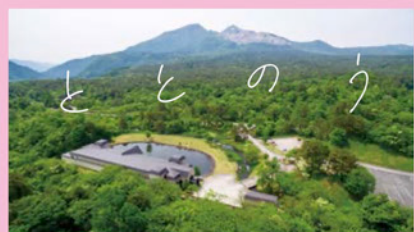
①

人々を幸せにする作品を!



ポール・セザンヌ《林間の空地》
1867年 油彩/カンヴァス

カミーユ・ピサロの名言にこんな言葉があります。「誰も見向きもしないようなへんびな場所に、美しいものを見る人こそ幸福である」。ポール・セザンヌは「そこに並んだ巨匠の作品を見終わったら、急いでそこを出て自然に触れ、私たちの内なる本能、芸術の感覚を生き生きとよみがえらせなければなりません」と言っています。これらの言葉からは、いかに印象派以降の画家たちが人々を幸せにする、幸せを伝えられる芸術を目指していたかをうかがい知ることができるのではないのでしょうか。



ととのう展 ～ヘルスケアにつながる美術館～

日時:2025年4月12日(土)～6月29日(日)

※会期中無休

9:30～17:00(最終入館16:30まで)

「ととのう」をキーワードに、ヘルスケアの視点からココロとカラダをととのえる展覧会。美術館でのヘルスケアの可能性について科学的検証や、印象派作品にみられる自然への眼差し、ダリによる天国描写なども紹介。その他、特別展示としてタナカカツキの『マンガサ道』の原画展示もお楽しみいただけます。



Tシャツイラスト:タナカカツキ



カミーユ・ピサロ
《ポントワーズ丘陵、牛飼いの少女》
1882年 グアッシュ/紙



モーリス・ユトリロ
《モンマルトルのソル通り》
1914年 油彩/カンヴァス



アンリ・マティ
《ペル＝イルの花束》
1897年 油彩/カンヴァス



今年は当館のコレクションから西洋近代絵画作品にフォーカスし、名画をモチーフにしたパーカーやTシャツがミュージアムショップに並びます。お気に入りの作品グッズを味わおう!

モロビアパレル

掲載する美術作品・諸橋近代美術館所蔵

空とシスレーのあいだに



シスレーは「空の画家」と言われており、友人に宛てた手紙に空について熱く書いています。「(...)肝心なのは、空の使い方である。空は単に背景にとどまるものではない。それどころか、空はその面[空にも大地と同様に幾層もの面があるのだ]によって、奥行きをもたらしだけでなく、その形態によって、タブローの構図上の効果と関連したその配置によって、動きを与えることもできる」。シスレーにとって空は変化することなく没頭したモチーフだったのでした。



よりみち展公式キャラクター
積みわらいエティ

「積みわら」と聞いて最初に思い浮かべるのは、連作も多く残しているクロード・モネではないでしょうか。一方、シスレーは「積みわら」をあくまで風景の一部として描くことがおおく、その中において、本作は積みわらを主役に描いた珍しい作品なんです!!
よりみち展でも作品の豆知識をお届けする予定っ

よりみち展

～美術のみかたが広がるよもやま話～

日時:2025年7月19日(土)～11月9日(日)

※会期中9/17のみ休館

9:30～17:00(最終入館16:30まで)

作品の本筋だけではない雑談や裏話といった、知られざる「よもやま話」にスポットを当てた展覧会です。サルバドール・ダリやルノワールやセザンヌをはじめとした西洋近代美術作品をご覧いただきながら、美術の歴史的な軌跡とその背後にある物語や技法、作家の人間性などを紹介します。

病んでもなお描く画家魂!?

